

図書館だより

第81号

令和5年2月28日発行
静岡県立沼津東高等学校
図書委員会
印刷：文光堂印刷株式会社
TEL：055-926-2800

読書スタイルは人それぞれ

校長 渡邊 紀之

1 歴史と役割の概要

私自身の読書に関する最も古い記憶は、小学校2年か3年の時に「十五少年漂流記」を読んだときの記憶です。この本が私にとって読書と呼ぶことができる最初の本だと思っています。挿絵の感じも何となく覚えています。この本は、読みたいと思って手にしたのではなく、親が買い与えてくれた世界児童文学全集みたいなものの一冊で、毎月届けられる最初の本だったように思います。私は、毎月本が届けられるのをとても楽しみにしていました。届けられる本は自分が選ぶわけではないので、途中で読むのをやめてしまったものもあります。「赤毛のアン」や「飛ぶ教室」。児童文学の傑作であるこれらの作品を途中でやめてしまった自分が情けないのですが、どこかが面白くなかったのだらうなと思います。面白と思う本を読んで、そうでない本は途中でやめてしまうという読書のスタイルは、今も基本的に変わらないように思います。

私にとって、読書は楽しみであり、学びでもあります。読んでいて面白く、気持ちが入り込むような本に出会うと、時間が経つのを忘れて没頭します。電車に乗っていて降車駅を乗り越してしまっただけでも何回かあります。没頭できる本のジャンルは様々です。小説もありますし、教養本・啓発本、仕事に関連して読んだ本もあります。ジャンルは様々ですが、没頭して読んだ本は、いろいろな形で自分の役に立っています。

私は生徒の皆さんに、越境することをお勧めしていますが、この越境という言葉も、読書で学んだものです。中原淳さん（立教大学経営学部教授）の「学びの教科書」を読んだ時に、心に響いた言葉です。ちなみに、中原さんは読書について、「本を読むことは自分の中に地図を持つこと。他者の経験や思考を代理学習すること」と述べています。私自身、読んだ本の中には、読んだ直後は感動して覚えているのですが、しだいに忘れてしまうのです。まさに、「本はどこに行っただ？」という感じです。この問題の解決には、サッカーの元日本代表、静岡県出身の長谷部誠選手の「心を整える」が、とても役立ちました。この本の中で長谷部選手は、読んだ本の印象や、いいな

と思った言葉をメモしておき、それを時折見返すことが、生きていく上での参考になるというようなことを書いていました。それで私も読書ノートを書いてみることにしたのです。読書ノートといっても、エクセルシートに、書籍名、著者名、感想を数行書く程度です。自分勝手に5点満点で採点もしています。十年以上続けています。長谷部選手の「心を整える」の欄には、「自分に必要なこと」↓「感謝の気持ちをもつて接すること」、「話している人の背後にある家族や人間関係を意識すること」、「常にフラットな視線を持つこと」、「愚痴を言わないこと」、「最悪を想定して行動すること」とメモしてあり、5点満点中の4点を与えています。採点は私の主観です。低評価を付けたある本（この本は途中で辞めずに最後まで読んだようです。）のメモには、「傑作ということだが、納得できる展開ではなかった。ゆっくりすぎる前半の展開と説明不足気味の後半の展開のスピードの違いも好きではない。」などと、好き勝手に書いています。読書は自分が好きなように進めることが一番だと思います。



ちろん図書館にあります！」という意見もありました。

読書会の本が、紹介だけで貸し出してもらえないのが残念です。また、読書会は趣味が似ている同士が見つけやすいし、好きな本について話すのは結構話しやすく、楽しかったです。

ビブリオバトルなどのイベントを、年度始めなどに催せば、同好の士が見つかりやすいし、友達の今まで知らなかった好みを知ることができるので、一石二鳥になる、試しにやってみたらどうかという提案がありました。図書館通信は、実はとても情報が豊富なのですが、いまひとつコマージナル不足かもしれません。（図書委員、頑張ろう）

図書館で借りる本について、分野別ビンゴやスタンプリー的なこと等々面白そうなアイデアが出てきました。

できたら、週1冊とか、月に2〜3冊くらい読んでほしい。↑それだけ読めば結構な読書量になります。休み時間に図書館を利用するのは難しいし、7時間目まであったり部活があったりすると、いろんな意味で図書館が遠い…、というのは理解できます。

ミネルバが図書館利用を阻んでいるという説もありますが（汗）、実は、ミネルバも図書館においてあります。

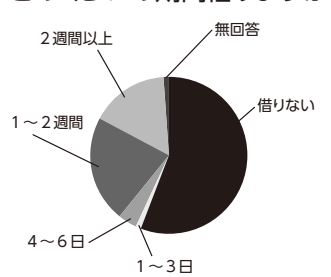
正解 「本や友だちを知るための楽しいイベントを企画する」

延滞についてのアンケート

こんにちは！ここからは、先日皆さんにご協力いただいた延滞についてのアンケートの結果報告とコメントをさせていただきます。

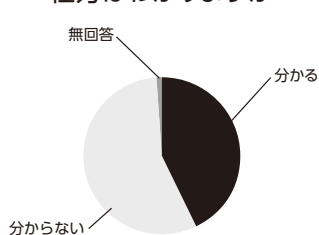
まずは問1。借りないという人は置いて、本を借りるとしたら2週間以上かかる人が多いようですね。やはり朝読書用に少しずつ読んでいく人が多いんですね。それに對して、一日〜三日で返す人は1%もいません。こんな少ない期間で読めるのはスゴイですね。

問1. 図書館の本をどのくらいの期間借りますか



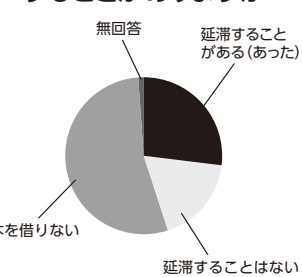
次に「貸出期間延長の仕方はわかりますか」の質問に、「わからない」という人が56%で、「図書館で本を借りない」と回答した56%と一致していますね。これは図書館を利用して人は全員分かっているという認識でよろしいんじゃないでしょうか。

問2. 貸出期間延長の仕方はわかりますか



問3。「図書館の本を延滞することがありますか」とあるか」という質問ですが、どうやら本を借りる人の中では延滞したことがある人が多いようですね。実は僕も延滞常習犯なので延滞することがないという人は自分を褒めてあげてください！

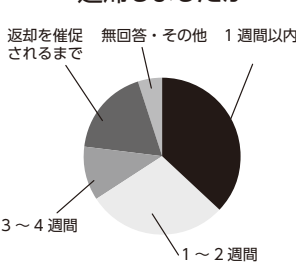
問3. 図書館の本を延滞することがありますか



続いてそれに関連して「どのくらいの期間延滞しましたか」という質問ではほとんどの人が長くても一ヶ月以内に返却していても安心しました。ですが、中には卒業後に返したという人もいました！

「延滞した理由はなんですか」という質問では「読み終わるのに時間

問4. どのくらいの期間延滞しましたか



以上、アンケート結果を見ながら、担当者たちで徒然なるままに話をしました。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。



図書館報対談 二〇二三

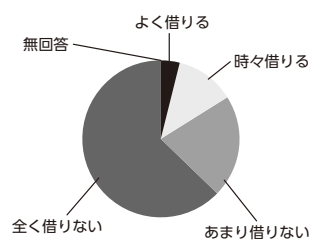
激論「五時までそれ正解」

図書館報のアンケートに対する対談を行いました。

今回は、図書館からどのくらい本を借りているのか、また、自分で購入して読んでいるのかについてアンケートを取りました。それらをもとに、解決したい問いを設定し、図書委員図書館だより担当の独断で、正解を決めています。

問「生徒は図書館で本を借りる？」

図書館で本を借りますか

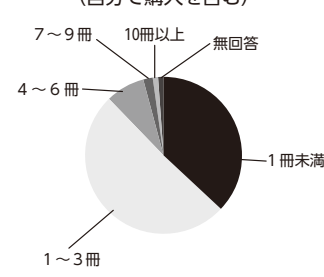


問「『ん』で終わる、理想の図書館は？」

担当からは、「他の図書館との差別化を図るべき」という提案が出ました。

「画集や写真集などは高いので、自分では買わない（買えない）本を置いてもらいたい」という声もありましたし、中には「日本史のテスト対策に、日本史の学習漫画を借りた」

1ヶ月に何冊本を読みますか (自分で購入を含む)



正解「図書館では借りてない（が、本を読んでいる人は多い）」

という面白い人もいました。

図書館は距離的にも遠いので、それもみんなが足を遠ざけている要因の一つのようです。それに対して、返却ボックスを教室等の各階、難しければ昇降口に設置して、返却だけでももっと手軽にしたらいいのでは？というアイデアが出ました。

本が好きな人は、買って並べるのが好きな人もいますし、図書館に来てほしいのは本をもっと読んでほしいからなので、カタログ的に「図書館で見かけた本が面白そうだから買おう」「みたいな使われ方でもいいのではないか、という見解もありました。

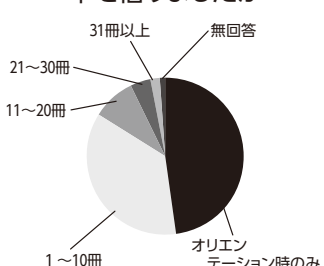
各階の廊下にあるブッククロッシングは手軽だけれど、システムが周知されていないので、利用している人は少ないのでは？それを周知するのとともに、ラインナップが古かったり、中には汚れている本があったりするので、見てみたくなるような工夫をするのも一つの案かもしれないです。ただ、古い本は入手が難しい場合もあるので、むしろ貴重かもしれないの匂いするような古い本マニアみたいなのがが増えてくれたらいいな、という声もありました。

図書館にはAERAやナショナルジオグラフィック、ロードショー、歴史街道などのバックナンバーを無

料でもらえるシステムもあります。結構高い本もあるので、好きな人には魅力的なはず。または、それを廊下において、「最新刊は図書館にあります」と宣伝するといったのでは？

正解 「生徒の読みたい本や、情報が豊富な図書館」

入学してから、何冊図書館で本を借りましたか



問「『る』で終わる、本に親しんでもらう方法は？」

「入学してから何冊本を借りましたか」という質問に、半数近い人が、「オリエンテーション時以来借りていない」と答えています。本を読む機会を増やすにはどうしたらいいか、という問いも話題にあがりました。

朝読書でしか本を読まない（読めない）人も多いので、ショートショート短編集、アンソロジーを紹介すれば読書のきっかけにしてもらえそうだし、名作の漫画書籍も、文学への入り口としてはいいのでは？（も

がかかったから」という人が43%で圧倒的1位。やっぱり本を読む時間を作るのは大変ですよね。次点は27%の「面倒だった、忘れた」でした。僕が延滞する時も大抵この理由なので何も言えません。

これらのことから、延滞率を低下させるには貸出期間を一ヶ月にするとかでどうでしょうか。（適当）

静岡県青少年読書感想文コンクール

静岡県高等学校図書館研究会賞

「喜嶋先生の静かな世界」

森 博嗣 著

『生きていく王道 死んでいく王道』

一年六組 廣瀬 えみ



青春とは、必ずしも青い空の下にあるわけでは無い。一行の数式にだってその欠片は内包されている。「人生」よりも壮大でないのに「思い出」と呼ぶには幼稚すぎる何かが私の心に風穴を開けて行った。興味本位で出会ったこの物語が人生を揺らす一冊となったことを端が折られたページたちが証明していた。

この主人公に私が映っている。第一章の半分を読み終えて、ふと思う。物語の主人公である橋場は小さな頃から数学と物理に惹かれる理系少年で、電波に関する本を図書館に探しに行くところから物語は始まる。

私は橋場が羨ましかった。橋場こそが著者が託した真の学びの姿であり教科書のどんなにすごい解法より、真似したいと思える存在だった。学問に

して同じ見解を持つ彼の心理描写に新しい同志でも出来たかのような親近感を覚えた。いつしか試験の科目として、経歴を示す道具として学問が利用されるようになった。宝

探しが制限時間の設けられたゲームになった。小学校、中学、高校と私は私の周りが死んだ目をしながら授業を受けるのを見てきた。時に教師も死んだ目をしていった。そんな授業やめれば良いのに彼らには就職または給料という鎖があって、私に昔子供のように楽しそうに英文法を教えた予備校の教師と比べると「腐り」を持った情熱だなど思ってしまう。私は明日の宿題をやりたくないわけでも自分の点数に不満がある訳でも無い。ただ彼と違って言語も文章も好きな私がこんな「感想文」を書くのは、彼と違ってしたくもない事を、したいことをする為の練習だとか神様がくれた試練だと思えたことは本当は、本当は一度もないのかも知れないからであった。学問が平等なのであるとしたら、私が小学生の時その本質を語れる大人は何人いただろうか。将来の為とかではなく数式や文章、現象の振る舞いに美しさを感じて純粋に「王道」を歩めた子供が何人いたのだろうか。

「学問には王道しかない。」

喜嶋先生はユークリッドの言葉を変えてこう言った。より困難で難しい方に進んでいく後悔のない美しい人間の生き方を込めたこの言葉。私はその王道の中には生きていくものと死んでいくものがあると補足してみた。あの死んだ目をした私の仲間、そして私も、みんなが死んでいく王道だった。大学に進学し研究に没頭していく橋場のシーンではミステリアスな大学の

雰囲気伝わってくる。中学とも高校とも違う、自分が生活を捧げて探究したい研究対象など持っていない人間が真っ先に除外される本場の環境。「知りたい」とは幸せなんだ。誰もがみな世界初のことを追いかける線の上で、喜嶋先生は「常に考えていることは、どう考えればよいかではなく何を考えるかだ」とも言った。私は今まで研究者とはわかつていることが頭の中にたくさん詰まっている人のことだと思っていたが、実際はわからないことばかりが頭を埋め尽くしているのだと思う。私たちのあるべき姿だ。

普通とは何だろうか。

私は始終考えていた。橋場は清水スピカと出会い家庭を持つことで「普通」を手に入れた。喜嶋研究室の同期の櫻居も、先輩の中村さんもそれぞれの道へ進み、喜嶋先生も計算機センタのマドンナである沢村さんと結婚をした。大切なものが増えるにつれて橋場の青春が色彩をなくしていくのを感じた。終焉となる第四章は青春小説のような鮮やかなハッピーエンドではない。この物語は平凡な日常に溶ける様にして終わっていく。一人の研究者のわからない事は、わからないまま終わっていくのだ。

「いつから僕は研究者を辞めたのだろうか。」喜嶋先生はずっと青春の中にいたのだ。「生きていく王道」を貫きたくて助手で在り続ける。政治的権力も学長の座も何も欲しない人間が、喜嶋先生だった。こんな自分の知りたいことに対してまっすぐに向き合い生きる人間を、「当たり前」を主張する我々が知らず知らずに殺してはいないだろうか。言葉という刃物で、常識という暴力で。もう一度考えたい。

最中だった。せっかく読むのだから、少しでも自分が興味を持てるものを読みたいという思いで目を通していく。そして「目の見えない白鳥さんとアートを见に行く」、その本が私の目に飛び込んできた。「目の見えない」人がアートを「見る」。少し不思議な感覚になったのと同時に、これだとなった。私とこの本の、はじめての出会いだった。

白鳥建二さんは全盲で、そして美術鑑賞者でもある。「目の見えない人は文字通り何も見えないのでは！」本を読む前の私は、深く考えもせず、そんなことを思ってしまった。それは、いとも簡単にひっくり返されることになる。白鳥さんは一人で出かけることに支障はないが、美術館を回る際は、アテンドの方とともに回ることが多い。その方は、美術館のスタッフの人だったり、気の置けない友人だったり様々なようだ。その人達に「何が見えるか」を聞いて、それを通して作品を「見る」。それが彼の美術の楽しみ方だった。私、そしてこの世界の多くの人が「見る」という行為を当たり前にしている。きつとほとんどの人が、余程のことがない限り、これから先も同じように生きていくだろう。だから、私は絶対に経験しない「目の見えない」ということがどんな風なのか、気になって仕方がない。言葉に言い表すのも難しいけれど、真っ黒なのか、真っ白なのか、それともぼんやり何かがあるのか。全盲や弱視、それだけでも世界は違うし個人個人でも全く違うのだと思う。けれど、想像してしまう。例えば、人間は真っ暗な部屋に入ると、目が慣れるまで何も見えない。そんな感じかと思ってみるが、それは私の想像の中のことなので本当のところがわ

からない。それが私を不思議な気持ちにさせた。まるで、長い長いトンネルを通過しているみたいだった。

「想像」と一言で言っても、一人一人が思い浮かべることは全く同じになるというわけではないため、目が見える見えないに関わらず、それぞれに感覚や価値観、好みがあると考え、大切に想う必要がある。今この瞬間、私と同じ考えで、思いで、生きている人間などどこにもいないのだ。そんなことを思い、今までは当たり前前ことに慣れすぎていたけれど、これからは、ふとした時の空や、周りの人の表情など、小さなことにも目を向けられるような人になりたい。そう思えるようになったのも、この本と出会えたからだ。

そして、あたかも自分が「視覚にハンデがある」ということがどういふことか「わかったように感じていたが、見える・見えないというものの奥底にあるものを、私が全く理解していない」ということを証明する出来事があった。富山県の黒部市美術館で行われた「風間サチコ展 コンクリート組曲」そこで披露された「デイスリンピック2680」著者の計らいで、白鳥さんたちの会話から、読者がその絵画を想像することになった。私は、少しのワクワク感を胸に、想像の風船を膨らませた。ここらへんに人がいて、ワールドがドーンと真ん中にあって：サモトラケのニケと、巨大なブルドーザー。こんなかんじでしょ！と結構な自信とともに裏表紙を確認すると：

フィールドはあるにはあるが、実際の作品はもっと生々しいというか、残酷さが想像よりもあった。それだけで、自分の甘さやいかに平和に平凡に生きているか、思い知らされるようだった。

読書感想文優秀作品

『その扉をたたく音』

瀬尾 まいこ 著

僕の扉をたたく音

一年三組 佐藤 桜汰



今も今日のご飯のことを呑気に考えているが、例えば、ウクライナはロシアとの戦争の真っ最中で、でも空は永遠と繋がっていて、今日も私は見上げてだろう。彼らは空を見上げて何を想うのだろうか。私にとっての日常は、生まれてから何の変化もなく、毎日学校に行ったり、眠ったりしてごく普通の生活を送っていて、それがふがいないくて、そして不思議。不思議という言葉とも違うけど、不思議。うまく言い表せないのがもどかしい。

私自身が見る世界と、ウクライナの子供が見る世界、そして白鳥さんの世界。見ているものは、障害の有無に関わらず、人それぞれであって、各々が全然違う意識を持っていて、でも確実に生きている。今この瞬間も、していることは全く別のことで、もしかしたら嬉しいし、もしかしたら悲しい。たくさんのアートの人々からそこまで考えさせてくれて、アートを見たいと自然と思わせてくれる彼の存在は、まさしく私たちに「アートを魅せてくれる」存在なんだと思う。

普通とは何だろうか。

学問とは何だろうか。

橋場が喜嶋先生との研究を思い返すラストに込められているのは、私たちへの問いだ。私は何かが消えた橋場を見て痛いほど切なくなった。青春の本当の幕引きとは忘却にあるのだと。あの時の橋場は、もう数式の中にしかない。今という時間は心の底から楽しいものだろうか。橋場しか理解できない研究があるように私にしか語れない何かを私はいつ見つけるのだろうか。私の今ある道は「生きていく王道」だろうか。私たちもまた、わからないことが頭を埋め尽くしている。何を研究しているのかもわからないまま、生きる。それがきつと人生なんだ。

喜嶋先生はとても静かだった。教科書を開くたび、ペンを持つたびに喜嶋先生は問いかける。意味のある真っ直ぐな言葉で。

あなたの中の王道は生きていますか。

読書感想文優秀作品

『目の見えない白鳥さんとアートを见に行く』

川内 有緒 著

ひとそれぞれ

二年二組 宇都出 眞彩



青空のものと八月某日。私は、読書感想文の本の一覧にとらめつこの真っ

「今からお前は戦士として生きていくことになった。装備の見直しを怠らぬようにな、さ、行くがよい。」

新たな職業に就いた時に言われるお決まりのセリフだ。この世界には他にも、僧侶や魔法使いから遊び人といったものまで、様々な職業がある。どの職業も、本当に魅力的で面白い。しかし、冒険の書に記録し終えたら、僕はただの高校生に戻ってしまう。こちらの僕は、将来就きたい職業なんて全く決まっていない。このままでは、宮路のようになってしまおうのではないだろうか。

宮路は二十九歳なのに働いていない。ミュージシャンになる夢を捨てきれず、何になりたかったのかもわからなくなっている。僕は中学生の時のキャリア研修で、いろいろな職業のことを学んだ。日本平ホテルのホテルマンの方は、接客が好きで、本気でお客をもてなしたくて、この仕事を選んだと話されていた。登呂遺跡の学芸員の方は、歴史が好きで、遺跡の歴史的価値や魅力をもっと多くの人に伝えたいと、様々な催しを企画されていた。どちらの仕事も、誰かのためにしている。みなやりがいを感じていた。僕は小学生の時、陸上選手になりたかった。東海大会や台湾遠征など、たくさんのことを経験し、宮路のように、努力すれば成し遂げられると思っていた。しかし、中学生になってからは記録が低迷し、怪我が続いた。もう治らない怪我也してしまった。夢は遠のいた。今では、好きだから走っている。宮路の音楽と同じだ。「就きたい仕事がなくとも、どんな形であっても、今自分がいる社会に働くことで関わっていかなければならぬ。」と宮路は言う。僕にもそれが分かる。将来になりたい職業

「灯台下暗し」ということわざをご存知だろうか。それは、幸せも然りである。貧しい家の子どもチルチルとミチルは幸せを求めて青い鳥を追いつつ旅するが本当の青い鳥は見つからない。

青い鳥は果たしてどこにいるのか？今の暮らしに満足していない人が大半だと思う。資本主義の物質的充足を目指す世の中でいつしか満足をおぼれた私たちに、今身の回りにあるものを見直す機会を与え、幸せを考えさせてくれる作品。

高校生の身でも一度読んでみる価値はある様に思う。

『青い鳥』

メーテルリンク



海外作品 特集

皆さんは小さい頃に読んだ童話を覚えているだろうか。この度この記事を書くにあたり「小さい頃読んだ海外の童話」というアンケートをとった。シンデレラやヘンゼルとグレーテル、ハリーポッターなど有名なものから、はてしない物語など有名なものまで幅広い作品が出て喜ばしかった。童話の中には、メッセーシ性の強い寓話も多い。これを機に少しでも寓話の中の道徳観や中世的な世界観を思い出してくれたら幸いである。

英米文学の三大悲劇と名高い作品。一口に言えば壮大な悲恋の物語である。19世紀のイギリスの荒野を舞台に繰り広げられるまるで昼ドラのようななどろどろな恋愛劇である。そこには愛する者と結ばれることのできなかつたヒースクリフの愛憎や苦しみがかかっている。ぜひともヒースクリフを情緒不安定な悪人として見るのではなく、感情移入しながら読んでほしい。恋愛の激情を描いたこの物語はそのジャンルを読まない者も人

『嵐が丘』

エミリー・ブロンテ



『老人と海』

ヘミングウェイ



アメリカ文学を代表するノーベル賞作家ヘミングウェイの作品。キューバの老漁師が一人小船で四日間にも渡る巨大なカジキマグロとの戦いを制すが、帰途サメに襲われ獲物を奪われる。戦う老人の精悍さや雄々しさ、自然の厳肅さを外面描写により、表している。内情描写ではなく、外面描写を多く使うことによって老人の飄々とした力強さを表すヘミングウェイの表現力に舌を巻く作品である。アメリカ文学としてのハードボイルドな文章や表現を楽しんでもらいたい。

司法試験に落ちて進路に迷う青年・佐伯健太郎。ある日、彼は血縁上の祖父が別にいることを知る。実の祖父は、太平洋戦争で零戦パイロットとして戦い、終戦直前に特攻出撃により戦死していた。そこで健太郎は祖父が特攻に志願した理由を調べ始め、やがて彼の最期を知る人物にたどり着く。

記念すべき百田さんのデビュー作であり、四百万部を突破している超傑作です。太平洋戦争時のエースパイロットである主人公の生への執着や、妻への思いが百田さんによって鮮明に描かれています。映画化もされておき、戦争ということでもグロテスクな場面が多くありますが、ゼロ艦上戦闘機のエンジン音の生々しさなど、小説では味わえないよさがたくさん詰まっていますので、こちらこそぜひチェックしてみてください。

『永遠の0』



百田尚樹の世界

情の機微に触れるという面で、ぜひ読んでほしい一作。

皆さん百田尚樹さんをご存じでしょうか。ここでは、数ある作品の中でも私が紹介したいと思った本をピックアップして紹介したいと思います。

『風の中のマリア』



晩夏に生まれたオオスズメバチのマリアは、姉から育てられて羽化をした現在、自らの育った帝国、姉妹や女王蜂のため、恋もせず、必死に戦い続ける。他の生物との関わりの中で、生物は子孫を残すことが目的であり、子孫を残さず、帝国のために働く自分は変わった存在であることを聞くが、それが自らの運命と気にすることはなかった。

オオスズメバチであるマリアの生涯を擬人化して語っている作品です。何を隠そうこの本は私が百田さんにはまるきっかけになった本です。主人公が蜂なので、その生態が詳しく説明されているという生物学的な側面を持ちながらも、説明臭さを感じることがなく物語に没頭できます。マリアはその利他的な生涯において、様々なことを経験し、自分の人生とは何なのか。自分の役割とは何なのかを捉えなおします。私たちにもそういったことを考え直す機会を与えてくれる作品です。

百田さんは、ほかに様々な作品を手掛けています。気になったらぜひチェックしてみてください。



ミステリ仕掛けの英単語

桃戸 ハル



どこか血生臭くて不穏な物語。そしてきつと、意外な結末。

「被害者はうつぶせで倒れており、血で書かれた文字が残されていた。」

「5分後に意外な結末」シリーズ原案のミステリー英文集。絶海の孤島、吹雪の山荘、孤立した集落……いつか事件に巻き込まれたら役立つかもしれない。

西川麻子は地理が好き。

青柳 碧人



死体があった土蔵の床には、一面に真っ赤な塗料が塗られていた。

アフリカの湖にまつわる意外すぎる犯罪、遺言状に隠された地図記号の暗号……

「地理」をこよなく愛する地理ガール探偵、西川麻子が、世界地理のトリビアで六つの謎を解き明かす。

国語、数学、理科、誘拐

青柳 碧人

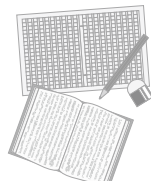


誘拐犯からの要求は身代金。「五千円を、全て一円玉で用意しろ」

東京郊外の小さな進学塾と、そこに勤める五人の大学生講師。ある日、塾に通っている小学六年生の女の子が誘拐されてしまった。五人の講師は少女を、塾を救えるのか。

スガリさんの感想文はい

つだって斜め上 平田 駒



ミステリアスな読書少女が、名作を斜め上からぶった斬る。

気弱な教師・直山の元を訪ねたのは、田舎から転校してきた美少女「スガリさん」。

彼女は「読書感想部」を立ち上げたいと告げるが、そんな彼女の読書感想文は奇想天外！

教科に触れる物語

化学探偵 Mr. キュリー

喜多 喜久



探偵も助手も、被害者も容疑者も、もれなく個性的。

大学構内に掘られた巨大な穴、教授の髪の毛の自然発火、ホメオパシーによる癌治療など、大学で次々起こる珍事件。解決に役買ったのは、秀才にして化学オタクの沖野教授・通称Mr.キュリー。彼が解き明かす事件の真相とは。

お任せ！数学屋さん

向井 湘吾



どんな悩みも依頼も、解決します。「数学」の力で！

数学の苦手な中学二年生・遙の前に、変わり者の転校生・宙がやってきた。「数学で世界を救う」と豪語した彼は転校翌日、「数学屋」なる謎の店を教室内で開店する。

浜村渚の計算ノート

青柳 碧人



義務教育から数学が消えた日本。数学者による「数学の地位向上のために国民全員を人質とする」テロ活動に、警視庁と中学生が立ち向かう。

数学好きも数学嫌いも楽しめる人気ミステリー。

ラブ・ケミストリー

喜多 喜久



研究漬け、恋愛超初心者の主人公が巻き起こすラブコメ×ミステリー

どんな物質でも瞬時に合成方法がわかる能力を持つ大学院生・桂一郎は新人秘書・美綾に一目惚れし、能力を失ってしまふ。スランプに苦悩する彼の前に、カロンと名乗る女性が「能力を取り戻してあげる」と現れ、美綾への告白を迫る。

図書館利用状況

今年度の図書館利用状況を報告します。
まず、一番読まれた作家は、昨年度に引き続き東野圭吾。華やかなホテルを舞台にした人気シリーズ最新作『マスカレード・ゲーム』を四月に上梓。圧巻の筆力で読者を飽きさせません。

二位は、昨年度三位の知念実希人。『祈りのカルテ』は、ドラマ化でさらに注目度アップ。医師兼作家ならではのリアルで細かい描写が話題です。

三位は、昨年度二位の辻村深月。主人公の繊細な心理描写が共感を呼んでいます。ミステリ・青春・コメディ・恋愛・ホラーなどジャンルが幅広い事も魅力です。注目は今年度急上昇の作家です。

『元彼の遺言状』『競争の番人』などドラマ化が続いている弁護士兼作家の青山帆立。青山美智子は、どの作品も連作短編になっており、ちよとした隙間時間に楽しめ、心がほっと癒されるような読書体験をしたい方におすすめです。2021年本屋大賞受賞作『52ヘルツのクジラたち』をはじめ、社会問題をテーマにしたシリアスな作風から、コミカルなお仕事小説まで、多彩な物語を描く町田そのの三人が初ランキンしました。

人気の作家

順位	著者名
1	東野 圭吾
2	知念 実希人
3	辻村 深月
4	伊坂 幸太郎
4	湊 かなえ
6	池井戸 潤
7	新川 帆立
8	青山 美智子
8	村上 春樹
10	宮部 みゆき
10	町田 そのこ

人気の本

順位	書名	著者名
1	同志少女よ、敵を撃て	逢坂 冬馬
1	六人の嘘つきな大学生	浅倉 秋成
3	かがみの孤城	辻村 深月
3	推し、燃ゆ	宇佐美 りん
5	余命 10 年	小坂 流加
5	5分後に残酷さに震えるラスト	エブリスタ
5	マスカレード・ゲーム	東野 圭吾
5	夜に星を放つ	窪 美澄
5	卒業 雪月花殺人ゲーム	東野 圭吾
10	FOOD ANATOMY 食の解剖図鑑 世界の「食べる」をのぞいてみよう	ジュリア・ロスマン
10	赤と青のエスキース	青山 美智子
10	死神と天使の円舞曲	知念 実希人

次に、貸出の多かった本です。一位の逢坂冬馬『同志少女よ、敵を撃て』は、アガサ・クリステイ賞大賞、本屋大賞受賞。独ソ戦で実在した女性狙撃兵の苦悩と連帯を描いた冒険小説です。ロシアによるウクライナ侵攻が影響しているのではないのでしょうか。

同率一位は、浅倉秋成の『六人の嘘つきな大学生』。就活生六人の騙し合いを描いたミステリ作品です。

三位には昨年度の人気本一位の宇佐見りんの芥川賞受賞作品『推し、燃ゆ』。沼津市出身の作者とあって、親近感が湧きますね。

最後に各分類の人気本を紹介します。

各分類の人気本

分類	書名	著者名
(0) 総記	スマホ断食 ネット時代に異議があります	藤原 智美
(1) 哲学	心の容量（キャパ）が増えるメンタルの取り扱い説明書	エマ・ハップバーン
	10代のための疲れた心がラクになる本 「敏感すぎる」「傷つきやすい」自分を好きになる方法	長沼 睦雄
(2) 歴史	世界史で読み解く現代ニュース	池上 彰
(3) 社会科学	ウクライナ侵略戦争 世界秩序の危機	『世界』編集部
(4) 自然科学	数学オリンピック事典 問題と解法 基礎編	野口 広
(5) 技術	FOOD ANATOMY 食の解剖図鑑 世界の「食べる」をのぞいてみよう	ジュリア・ロスマン
(6) 産業	ディズニーリゾート150の秘密	TDR研究会
	とりあえず、素人っぽくないデザインのコツを教えてください！ 初心者のためのデザイン書	ingecter-e
	交易の世界史 シュメールから現代まで	ウィリアム・バーンスタイン
(7) 芸術	アニメ私塾流最速でなんでも描けるようになるキャラ作画の技術	室井 康雄
(8) 言語	英語を話すために知っておきたい知らない英文法	mami
(9) 文学	同志少女よ、敵を撃て	逢坂 冬馬
	六人の嘘つきな大学生	浅倉 秋成

あとがき

ポケモンの主人公がサトシではなくなり、時の流れを感じる今日この頃ですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。それはそうとみかんはオレンジの上位互換だと思っただけでしょうか。では、さようなら。
(大橋 泰紀)

今回のために以前読んでいた本を久しぶりに読み返したら、2周目でも楽しめました。新しい読み方に出会い、制作の裏側を知れてとてもいい機会になりました！
(大畑 優衣)

原稿作成のために月に6冊本を読みました。合計1800ページ弱なので一日60ページ、毎日2時間読むとすると時速30ページ。朝読書ではもっと速いのでこのデータは間違いですね。(竹廣 真悠)

奴(スマホ)は私の青春時代の貴重な時間を徒に奪ったばかりか、純真な我が心をけがした罪により終身刑を言い渡され此く言ふ私は社会的孤立を深め孤独を謳歌する所存。
(田島 蒼生)

初めてこのような活動に関わらせていただきました。大変でしたがとてもいい経験になったと思います。この活動が皆さんの充実した読書の一助となれば幸いです。
(宮根 健宏)

令和5年度 沼津東高校
図書委員会

今年度は、コロナ禍で中止になっていた図書委員による選書会を七月に行うことができました。
また、リクエスト本は図書館カウンターで随時受け付けています。ぜひ活用してください。
来年度も、皆さんの利用を図書館一同お待ちしております。